

令和3年度第2回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和3年9月16日(木) 15:00～17:00
- 2 方法 Skype for Business を利用したオンライン
- 3 出席者 高田委員長、黒瀧委員、小野寺委員、一条委員、守屋委員、大坂委員、佐々木委員、安部委員
- 4 検討結果 製材品等に対する需要は旺盛であり価格も高止まりしている。このため、原木の引き合いは強く、価格も強含んでおり、原木不足が継続し、各製材工場等の在庫量は減少傾向にある。一方で、設備や人材不足などから供給側は増産が困難な状況にある。以上の状況を踏まえ、今後もこうした状況がしばらく続くと思われることから、素材生産事業については着実に事業を実施し、市場へ安定かつ早期の原木供給を行うこととされたい。
- 5 主な意見
 - (1) 製品需要は一部落ち着きを見せ始めているものの引き合いが強い状況が続いており、価格も高止まりしている。製材工場、合板工場ともすでにフル稼働を続けており、これ以上の増産が難しいこともあり、引き合いが強く、価格も高い状況がまだしばらく続くものと思われる。
 - (2) 各工場の原木在庫は減少しており、原木の引き合いが強く、いくつかの大型工場で受入価格を引き上げる動きも見られる等、製品ほどの上昇は無いものの、原木価格も高止まりしている。
 - (3) 川下では品不足に対して代替品の活用による対応が見られるが、価格の高騰に対しては一部についていけず、受注を控えるなどの動きも出始めている。
 - (4) 中国への原木輸出はやや鈍化傾向にあるものの続いている一方で、アメリカ向けの製材品輸出に関しては、北米での木材価格の下落等から先行きが不透明となりつつある。
 - (5) 国有林材の早期販売の取り組みや、立木販売の前倒しによる木材の早期供給の取り組みは買受者や需要者から木材不足への対応として好評であった。原木の安定確保が何よりも重要なことから、より一層早期販売の取り組みを続けてほしい。